

# 中日ビル

Chunichi Building

No. 13-087-2025作成

新築

事務所/物販/飲食/ホテル/集会場/その他

発注者	中部日本ビルディング株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携				
施工	株式会社竹中工務店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

## 街と共に生き、栄エリアの発展をリードしていく中日ビル建替計画

### 名古屋の文化の発信や交流拠点

新中日ビルは名古屋栄4丁目に位置し、広小路通と久屋大通という地区の大通りに面する敷地に計画された。名古屋を代表する繁華街・ビジネス街である「栄」と共に、半世紀に渡り市民のランドマークとして愛された旧中日ビルの記憶と遺産を継承しつつ、新たな魅力と利便性を取り込み、複合重層高層ビルへと生まれ変わる再開発計画である。

### 周辺環境への配慮

本計画は、都市再生特別地区制度による複合重層高層ビルである。低層部には商業施設、ホール及び、会議室を配置した。中層部にはオフィス、高層部にはホテルと、異なる用途が積層され、その境には設備スペースを配置した。また、地下には自走式駐車場と地域冷暖房施設を構えている。

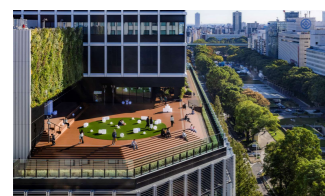
建物形状は久屋大通公園や濃尾平野への眺望を優先し西面は板状とし、東面は隣地に配慮し圧迫感を軽減するために三段構成とした。久屋大通のスカイライン（45m）に合わせた低層部と高層部に分割している。

### 外装計画

低層階の外装には旧中日ビルの特徴でもあったソーラースクリーンを復興し、旧中日ビルの記憶を継承しつつ、久屋大通公園との「見る・見られる」の関係を考慮した。また、中層階と高層階のグリッドフレームによるファサードは、街の新たなランドマークとしての一役を担っている。

### 緑化計画

7階屋上には、緑豊かな久屋大通の街並みを一望できる屋上庭園を配置した。ウッドデッキの中央には、旧中日ビルの回転展望レストランをモチーフとした円形の芝生広場を配置すると共に、パーティカルフォレストによる壁面緑化を施した。壁一面に施した



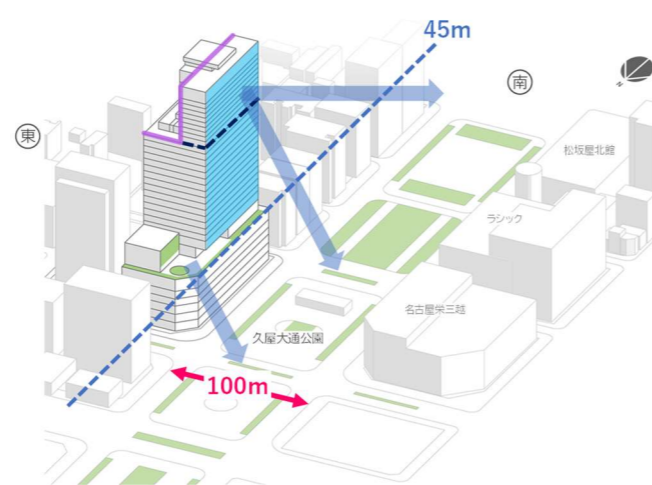
7階屋上庭園



パーティカルフォレスト



外観（久屋大通りから）



久屋大通との関係性



低層階外装計画

建物データ	所在地	愛知県名古屋市	省エネルギー性能	CASBEE評価	
竣工年	2024年	BEI (通常の計算法)	0.74	Sランク	
敷地面積	6,282㎡	BPI (通常の計算法)	0.93	BEE=3.6	
延床面積	117,293㎡	LCCO <sub>2</sub> 削減率	24%	CASBEE名古屋2016年度版自己評価	
構造	S・RC・SRC造				
階数	地下5階、地上33階				

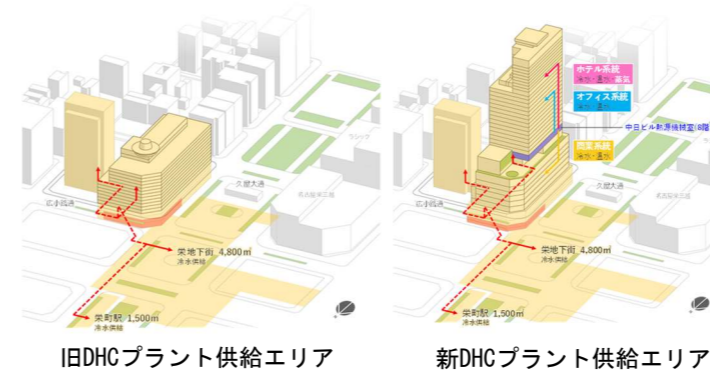
中部地区の各県に因んだ四季の草木が、栄の街に新たな緑化景観を生み出している。パーティカルフォレストは久屋大通公園からも見ることができ都市の緑の拡張に寄与している。24階（GL+約120m）にも屋上庭園を設け、高層階からも緑を感じられる建物とした。

### 建物利用者への事業継続性の確保

BCP対応として特高3回線スポットネットワーク受電及び高圧幹線の2重化・非常用発電機による72時間の電源確保により安全性・冗長性を高め、主要電気室を地上階に設置することで水損を防ぐ計画とした。オフィスのコンセント保安電源50%確保（30VA/㎡）やホテルの全客室への保安電源の供給など居住者の事業継続性に配慮した。空調設備は重要機能室にEHPを採用し保安電源により有事の空調継続稼働を可能とした。

### 更なる省エネを確保したDHC更新計画

地域の熱供給を担うために旧中日ビルB4階に1990年に開設された地域熱供給プラント（DHCプラント）を継承する新DHCプラントを構築し、建替後も引き続き都市の快適性・利便性・省エネ性の向上に貢献していく計画とした。新プラントはINVターボ冷凍機を主熱源とし大型冷却塔の採用により屋外設置スペースを最小化する計画とし28%の省エネルギーを実現した。



旧DHCプラント供給エリア

新DHCプラント供給エリア

### 用途毎に最適な空調システム・省エネ技術を採用

商業外調機の排気カスケード利用、オフィス空調機のCO2センサー採用・エアバリアによるペリメーター負荷の遮断、ホテル外調機への全熱交換機の組み込みなど用途毎に最適な空調システムを採用した。搬送動力の低減として冷温水のΔt=10℃の大温度差送水・ホテル貯湯槽へのDHC蒸気の直接供給を採用した。省エネ性向上や快適性向上に寄与する設備システムの導入・運用・冗長化により一次エネルギー消費量26%削減（BEI:0.74、BPI:0.93）、CASBEE名古屋「S」（BEE値:3.6）、DBJ Green Building認証☆☆☆☆を取得した。

### 設計担当者

建築：河辺晴重 / 構造：河登健太郎、鶴ヶ野翔平、設備：細沢貴史、中川一平、近藤亮彦  
インテリア（ホテル）：黒柳亮、柳澤隆

注）写真撮影者：エスエス名古屋 彦坂 武徳

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2.2. 耐用性・信頼性（設備の信頼性（BCP対応））
- Q2.3. 対応性・更新性（設備の更新性）
- Q3.1. 生物環境の保全と創出（外構緑化、建築緑化）
- Q3.2. まちなみ・景観への配慮（歴史性の継承、建物配置や形態のまちなみとの調和）
- LR1.3. 設備システムの高効率化（地域冷暖房、LED照明、センサー制御）
- LR3.2. 地域環境への配慮（建築緑化、方位等に配慮した配置計画）



久屋大通から見た壁面緑化



24階屋上庭園

エリア	ゾーン	照明	コンセント	換気
商業	共用部	保安灯程度	—	—
	トイレ	100%	100%	100%
オフィス	共用部	25%	—	—
	執務室	25%	50%	自然換気
ホテル	トイレ※	100%	100%	100%
	共用部	25%	—	—
	客室	100%	100%	100%

※オフィスエリアのトイレ保安電源対応は奇数階のみ  
各エリア・ゾーンに占める保安電源の割合



商業エリア吹き抜け

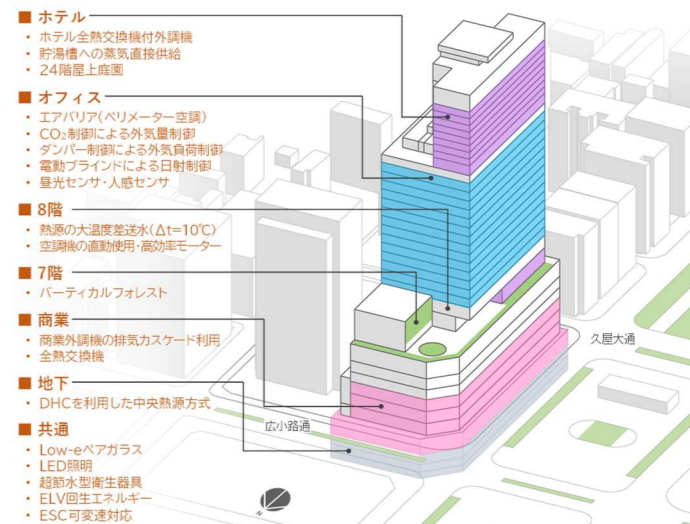


新DHC大型冷却塔

（パーティカルフォレスト背面に設置）



新DHCプラント



用途毎の主な設備計画